

動物用医薬品

# インターフェロンα製剤 インターベリーα<sup>®</sup> インフォメーション

## Q インターベリーαの効果が最大化する期間は？

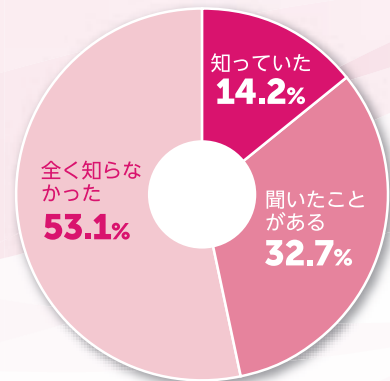
**A** インターベリーαは主に口腔内の免疫力を高めることで歯周病原細菌を減少させ、さらに炎症に関与するサイトカインや酵素の発現を有意に抑制することで、歯肉の炎症を抑えると考えられています。したがって効果の発現に数日から数週間必要で、ご家族様は歯肉炎の改善をすぐに実感しにくいことがあるようです。

インターベリーαの効果が最大化するには投与開始から2~3ヶ月かかり、効果持続期間は犬では9~12ヶ月、猫では3~6ヶ月程度であることを処方開始時にご家族様へお伝えください。

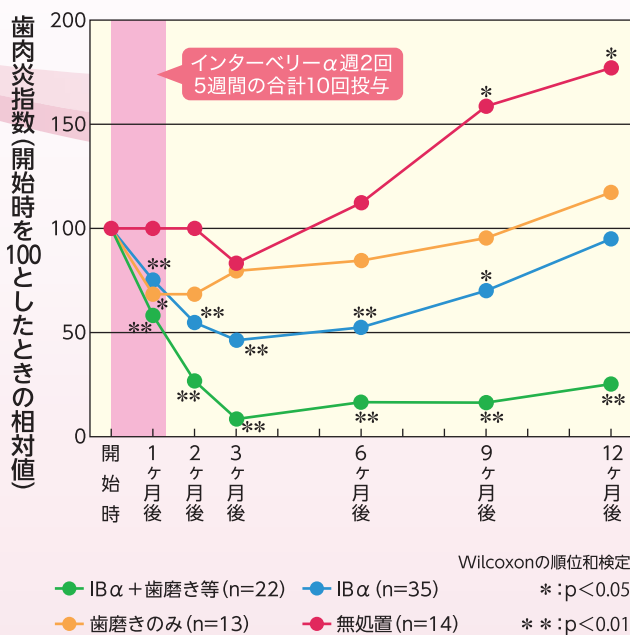


インターベリーαは最大の効果を発現するまで使用開始から犬猫とも約3ヶ月かかり、その後数ヶ月効果が持続することをご存じでしたか？  
(n=1841)

2023年10月16日~11月19日配信のオンライン歯科セミナーアンケートより

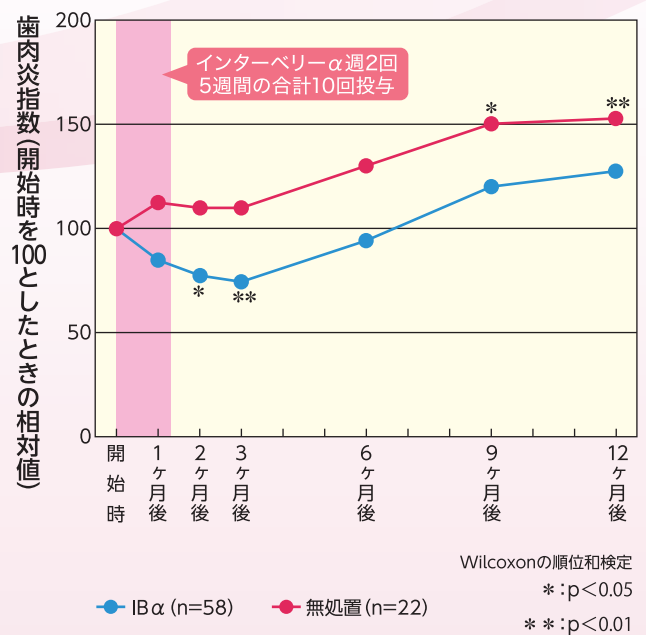


### 犬の歯肉炎指数の変化率



J. Jap. Vet. Med. Assoc. 70:589-593,2017(データを一部再解析)

### 猫の歯肉炎指数の変化率

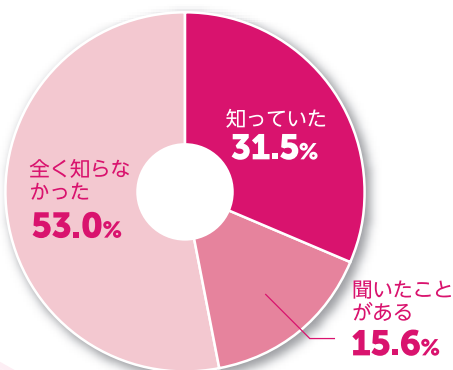


J. Vet. Med. Sci. 82(2):232-236,2020(データを一部再解析)

## Q ペット保険は使えるの？

**A** 薬剤負担を気にされるご家族様も多いかと思えます。インターペリーαは動物用医薬品ですので「歯肉炎」と診断された症例にはペット保険が適用になる場合があります。ペット保険にご加入のご家族様には特にお勧めです。

インターペリーαは動物用医薬品であり「ペット保険」が使用できる場合があることをご存じでしたか？ (n=1841)



2023年10月16日～11月19日配信のオンライン歯科セミナーアンケートより

### 保険適用のPOPのご紹介

10cm円の  
スイングPOP

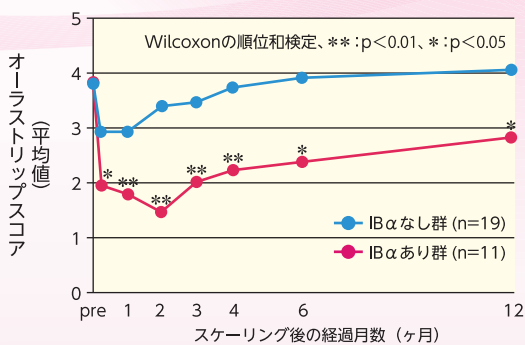


上記ツールをご希望の場合は弊社営業担当者または特約店担当者様へお申し付けください。

## Q スケーリング後の使用で効果は長持ちするの？

**A** せっかく行ったスケーリングですので、ご家族様はいつまでもお口の中をきれいに保ちたいとおられるはず。スケーリング後から週2回5週間インターペリーαを使用することで、クリーンになった口腔内環境を長期間保つことが報告されています。もちろん歯みがきなどのオーラルケアが最も大切であることに変わりはありません。また年に1回のスケーリングで死亡リスクが20%近くも下がること示唆されており、スケーリングを積極的に提案することも大切です。

### スケーリング後のインターペリーα使用による効果



【症例1】左: IBα塗布、スケーリング6ヶ月後 右: IBα塗布、スケーリング12ヶ月後



【症例2】左: IBα非塗布、スケーリング6ヶ月後 【症例3】右: IBα非塗布、スケーリング6ヶ月後

J. Modern. Vet. Med. 28(180):89-91,2019

VETS TECH 文献ニュース TOOTH 歯

年に1回のスケーリングで  
**死亡リスクが  
 20%近くも下がる!?**

犬の寿命に関連するリスク因子についてSilvia R. Uribe氏は、約237万頭の犬を用いたレトロスペクティブに研究を行った。その結果、未避妊メス、未去勢オスは避妊メス、去勢オスと比べて死亡リスクが高いこと、年に1回のスケーリングは死亡リスクが低下することが明らかになった。  
 結果は Journal of American Animal Hospital Association 2019年5,6月号に掲載された。

Sponsored by  
 bch 物産アニマルヘルス

**研究の背景** *Research background*

犬の寿命について、これまで様々な研究がされてきているが、犬種や体格、体重などに大きな影響を受けている。一般的には小型犬の方が大型犬よりも寿命が長いとされている一方で、寿命に関する研究は品種やサイズや対象とする集団、統計解析の方法によってバイアスがかりやすい問題点もある。そこで筆者らはアメリカの一次診療施設における犬の寿命と犬種、体格、避妊去勢の有無との関連性を評価することを計画した。また、犬種ごとの寿命の推定と避妊去勢の有無、歯槽膿腫への来院頻度、歯科スケーリングの頻度と寿命との関連性について評価することを計画した。

**来院した犬237万頭の体格、避妊去勢の有無、歯科スケーリングと寿命との関連性を評価**

本研究は2010年1月から2012年12月までにBanfield Pet Hospital(全米にある一次診療施設787病院)に2回以上来院した生後3か月以上の犬をレトロスペクティブに組み入れた。なお、生年月日、犬種、避妊去勢の有無が不明な犬は除外した。

**データ**

組み入れた犬のシグナルメント避妊去勢の有無、犬種、体格、平均体重、最終来院時の年齢、死亡時の年齢、来院頻度、歯科スケーリングの頻度などに関するデータを収集した。

**寿命の算出**

得られたデータから安楽死または死亡時の年齢を抽出し、 Kaplan-Meier 曲線により寿命推定値を算出した。また、試験期間終了時点で生存した犬はその時点で打ち切りとした。また避妊去勢の有無、犬種、体格別の寿命も算出した。

**統計学的手法**

多変量Coxハザード回帰分析を行い、寿命と関連する因子を評価した。

VETS TECH  
 Jun 2020 <https://vets.tech.jp/>

J. Am. Anim. Hosp. Assoc. 55(3):130-137,2019